

＜今日の説教のポイント イザヤ 19:16-25、ガラテヤ 3:26-29＞
なぜキリスト者同士で戦争するのか？ それに対する聖書の答は？

1 キリスト者が戦争するのは聖書が信じるに足りないことの証拠か？

「聖書を信じる人が戦争を起こすのはおかしい」、そう思われる方は少なくないと思います。しかしキリスト者が戦争を起こすことは聖書が間違っている理由にはならず、聖書を読んでもなお戦争を起こす人間の罪の大きさを示しているのです。聖書を読んだら戦争が無くなればいいと私も思いますが、残念ながら聖書はそのようなことを語っているのではないのです。では聖書は何を語っているのでしょうか？

2 聖書が伝えようとしていること — 人間の罪と神様のその赦し。

ウクライナへのひどい爆撃のニュースを見る度に思われることは、どうしようもないほど大きな人間の罪深さです。聖書の神様を知り礼拝していても、なおあのような残虐行為をし続ける人間の罪深さを思われます。しかし、それゆえに聖書に失望して信仰を捨てようとは思いません。なぜか？ 聖書はそれほど罪深い人間の罪を問題とし、その罪を赦して下さる神様の赦しについて語っているからです。

3 神の赦しについて聖書が語っていること — 二つの個所から。

聖書を理解するためには、ある部分だけ読むのではなく全体で何を言おうとしているかを考えることが大事です。今日取り上げた旧約聖書のイザヤ書 19:16-25 を読むと、旧約聖書の神様もまた罪深い人間をどこまでも見放さず、神様の方に向けて歩み出すことを待って下さっている神であることが分かります。今日取り上げた新約聖書のガラテヤの信徒への手紙 3:26-29 で、これを書いたパウロが、旧約聖書の同じ神様が御子イエス・キリストをお送り下さり、この方によって罪深い私たちに新しく生きる道を用意して下さったことを伝えようとし、それがどのような恵みに満ちた内容であるかを伝えようとしているかが分かります（新約聖書のペトロの手紙Ⅱ 3:8-9 の内容が大事）。

4 聖書の神様を信じるとは、人間の宗教ではなく神への信頼(信仰)。

「人間に解決できない問題は、それを越えたものからの解決を必要とし、またそこに答えがある」。哲学（人間についての学）と神学の違いがここにあります。つまり、キリストを与えて下さった神様について知ることが神学です。そしてその神様を信じ、その神様が語られる言葉に立って生きる生き方が罪赦された者に用意されているのです。